古今和歌集『仮名序』定期テスト対策問題

組　　番　　氏名　　／100点

■ 本文

やまと歌は、人の心を種として、〔①〕よろづの言の葉とぞなれりける。〔②〕世の中にある人、ことわざ繁きものなれば、心に思ふことを、見るもの聞くものにつけて言ひ出せるなり。花に鳴く鶯、水に住む蛙の声を聞けば、〔③〕生きとし生けるもの、いづれか歌を詠まざりける。〔④〕力をも入れずして天地を動かし、目に見えぬ鬼神をもあはれと思はせ、男女の中をも和らげ、〔⑤〕猛き武士の心をも慰むるは歌なり。

■ 設問（全21問）

1. 「種として」「言の葉」とは、それぞれ何をたとえたものか。比喩の関係をふまえて説明しなさい。
2. 傍線部①「よろづの言の葉とぞなれりける」を現代語訳しなさい。
3. 傍線部①について、次の問いに答えなさい。
   (1) 文中の「ぞ」の文法的なはたらき（種類）を答えなさい。
   (2) 「ぞ」を受けて、文末の「なれりける」が連体形になっている。この文法現象を何と呼ぶか答えなさい。
   (3) 「なれりける」を文法的に分解し、それぞれの品詞・活用形・基本形（終止形）を説明しなさい。
4. 傍線部②「世の中にある人、ことわざ繁きものなれば」を現代語訳しなさい。
5. 傍線部②の「ことわざ」の本文中での意味として最も適切なものを、次から一つ選びなさい。
   ア 教訓を短くまとめた言い回し（諺）
   イ さまざまな出来事・事柄、なすべきわざ
   ウ 神に祈ることば
   エ 仕事の手際のよさ
6. 「なれば」の「ば」について、接続している活用形と、ここでの意味（用法）を答えなさい。
7. 「心に思ふことを、見るもの聞くものにつけて言ひ出せるなり」を現代語訳しなさい。
8. 「花に鳴く鶯、水に住む蛙」が本文中で果たしている役割として最も適切なものを、次から一つ選びなさい。
   ア 季節の移り変わりを示す例である。
   イ 人間以外の生き物も歌を詠む、という主張の具体例である。
   ウ 自然が人間より優れていることの例である。
   エ 和歌に詠むべき美しい景物の代表例である。
9. 傍線部③「いづれか歌を詠まざりける」を現代語訳しなさい。
10. 傍線部③について、次の問いに答えなさい。
   (1) 「いづれか……ざりける」は、どのような表現か。表現技法の名称を答えなさい。

(2) この表現によって、筆者は結局どのようなことを言おうとしているのか。肯定の内容に直して答えなさい。

(3) 「ざり」の基本形（終止形）と意味を答えなさい。

11. 「生きとし生けるもの」を現代語訳しなさい。また、「し」の文法的なはたらきを答えなさい。

12. 傍線部④「力をも入れずして天地を動かし」を現代語訳しなさい。

13. 本文後半（傍線部④〜⑤）では、和歌の四つのはたらき（効用）が挙げられている。その四つを、本文に即して簡潔に箇条書きで答えなさい。

14. 傍線部の「あはれと思はせ」の「あはれ」の意味として最も適切なものを、次から一つ選びなさい。

ア かわいそうだ・気の毒だ

イ おもしろい・こっけいだ

ウ しみじみと心を動かされる・趣深く感じる

エ おそろしい・不気味だ

15. 傍線部⑤「猛き武士の心をも慰むるは歌なり」を現代語訳しなさい。

16. この一文（問16の部分）は、和歌がどのようにして生まれると述べているか。「心」「ことば」という語を用いて説明しなさい。

17. 本文全体をふまえ、筆者が考える「和歌（やまと歌）」とは何か。冒頭の比喩をふまえて二十五字以内で説明しなさい。

18. 次の文学史の問いに答えなさい。

(1) 『古今和歌集』は、誰の命令によって作られた、どのような種類の和歌集か。漢字四字の語を用いて答えなさい。

(2) この仮名序を書いたとされる中心的な撰者は誰か。人名を答えなさい。

(3) 『古今和歌集』が成立したのは何時代か答えなさい。

19. 『古今和歌集』には、この「仮名序」のほかに、漢文で書かれた序文がある。その序文の名称を答えなさい。

20. 「仮名序」が和歌に対して与えた評価・位置づけとして最も適切なものを、次から一つ選びなさい。

ア 和歌は漢詩に劣る遊びにすぎないと退けた。

イ 和歌は人の心を表し、天地や神仏・人の心までも動かす力をもつものだと高く評価した。

ウ 和歌は貴族だけが楽しむべき特別な技芸だと述べた。

エ 和歌は政治の道具として用いるべきだと主張した。

21. 傍線部全体をふまえ、この仮名序が日本文学史上きわめて重要だとされる理由を、「歌論」という語を用いて一文で説明しなさい。